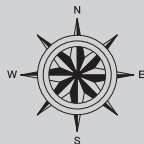


# 北から 南から



★この欄ではみなさまからのご投稿をお待ちしています。  
 ★送り先〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14 日本図書館協会  
 図書館雑誌編集委員会「北から南から」係  
 ★掲載は委員会で審議のうえ決定いたします。

## 学生のための大学図書館へ！

－大学図書館利用者激減に対する  
長崎大学附属図書館の改善の試み－

一瀬 瞳・浜田久之・河野 茂

はじめに

2019年末より発生した新型コロナウイルスのパンデミック以前にも、

大学生の読書離れ、パソコン必携化による図書館内設置パソコンを利用する学生の減少、インターネットに

よる文献検索の簡便化等により、図書館の利用者数は減少傾向にあった。さらに、感染拡大を防ぐための利用制限が追い打ちをかけるように、学生の図書館離れを助長した。その結果、2020年度の本学図書館の入館者数は、前年度の約3分の1と激減した。2021年度始めには、利用制限はある程度緩和されたが学生が戻ることはなかった。全国的にも、同様のことが起こっており、大学図

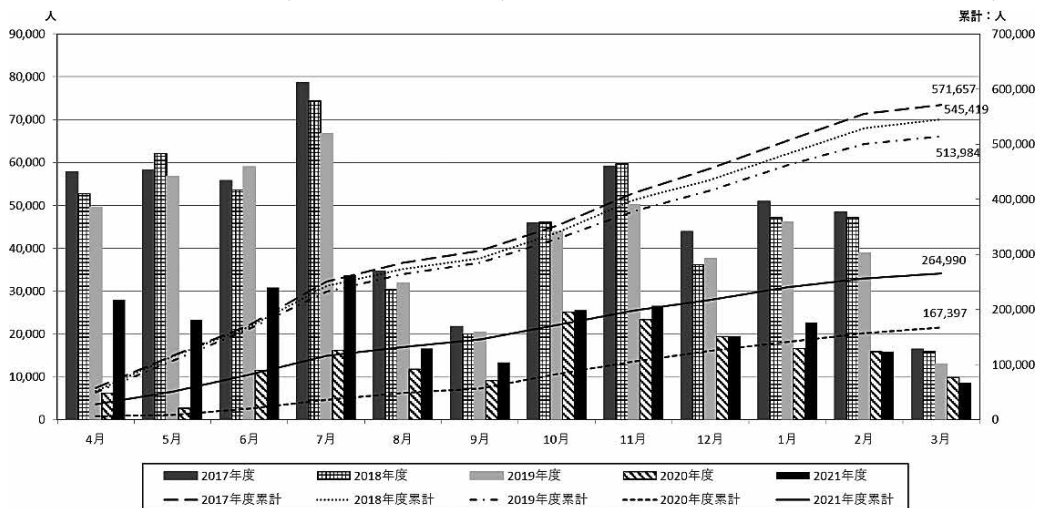


図1. 学生の入館者数の推移 (中央図書館・医学分館・経済学部分館合計)

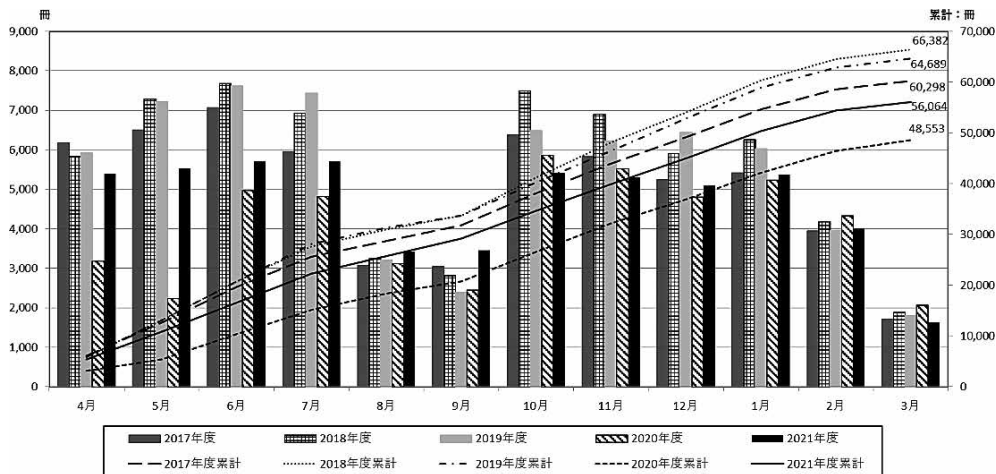


図2. 学生の貸出冊数の推移 (中央図書館・医学分館・経済学部分館合計)

書館の存在意義を問い直すことが必要となってきた。

長崎大学附属図書館では、利用者激減の危機的な状況を踏まえてこの状況を打開するために、河野茂長崎大学学長、浜田久之附属図書館長とともに、附属図書館職員が2年間の行動目標を作成した。本稿では、行動目標の作成過程および2022年3月までの目標達成状況について具体的に報告する。

### 2021年4月までの本学の状況

学生の入館者数は、新型コロナウイルスのパンデミック以前の2019年度までも、緩やかな減少傾向が続いており、問題になっていた(図1)。2017年度と比較すると、2019年度の入館者数は、10.1%減少していた。

学生の貸出冊数に着目すると、2019年度までは、ほぼ横ばいで推移していた(図2)。2019年度の貸出冊数は、過去5年において、貸出冊数のピークである2018年度と比較すると、2.5%の減少にとどまっていた。

新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、入館時の検温と手指消毒、清掃・換気の徹底や、閲覧席の数の削減、ラーニングコモンズの利用禁止など、さまざまな利用制限を行った。一方で、新型コロナウイルスのパンデミック下においても学生の学習の場を確保するために、中央図書館は休館しなかった。また、学生のオンライン授業や自宅学習を支援するため、電子ブックや電子ジャーナル、データベースの提供などのオンラインサービスを充実させた。

大きな体制の変化として、2021年4月から新たな館長が就任した。新館長が掲げた「学生のための図書館」というスローガンのもと、職員全員で改めて大学図書館の状況や存在意義について幅広く議論して、図書館利用者激減という現状を改善するための行動目標を作成することとなった。

### 行動目標の作成過程

行動目標の作成にあたり、計2回のワークショップを行った(写真1、



写真1. ワークショップの様子 (話し合い)



写真2. ワークショップの様子 (発表)

2)。第1回ワークショップでは、図書館の役割や司書の仕事、大学図書館について改めて考えることを目的とした。館長主催のもと、職員全員が参加のうえ、簡単なウォーミングアップも取り入れて、参加者間で活発なコミュニケーションを行うための雰囲気作りから始まった。まず、マインドマップを作成しながら、参加者ひとりひとりが司書の仕事や図書館の役割について、改めてじっくりと考えた。各個人のマインドマップが完成した後に、参加者のマインドマップを見ながら、お互いの意見を共有した。次に、二つのグループに分かれて話し合いながら、理想の大学図書館についてKJ法を用いて考えた。グループでの意見を1枚の紙にまとめて、グループで考えた理想の図書館について、お互いに発表した。図書館の環境や設備、サービスなどさまざまな視点からの意見が挙がった。

第1回ワークショップ後、館長より「利用者ファースト」と「効果的な情報発信」という二つの大目標が示された。これらの目標を達成するために、小目標を各自で考え、案を作成した。そして、第2

回ワークショップでは、持ち寄った案を検討した。各自が提出した目標を、「学習支援」や「施設設備」、「SNS」など見出しをつけて分類した。次に、それらの見出しを中目標としてまとめ上げ、二つの大目標の下に並べた(図3)。「利用者ファースト」の中目標は、ニーズ調査、オンライン・対面のサービスの向上、学習環境の整備となり、学生へのサービス向上をはかることを目指すものである。小目標には、Webアンケートの実施やオンライン学生相談の実施、ゾーニングの見直しなどを挙げた。「効果的な情報発信」の中目標は、SNSの活用、刊行物の見直し、図書館のPRイベントの開催など、学生に向けて効果的な情報発信を目指すものである。小目標には、新規SNSの導入、ホームページのリニューアル、学内広報との連携などを挙げた。目標を達成するために、小目標には具体的な数値や期間を設定した(表1)。さらに、2021年度の学生の入館者数については、新型コロナウイルスのパンデミック以前である2019年度入館者数の50%を目標に掲げた。また、学生の貸出冊数は2020年度比5%増を目標とした。

「学生のための図書館」のスローガンのもと、職員全員で作成した「利用者ファースト」と「効果的な情報発信」という行動目標について、学長に向けて館長も交えてプレゼンテーションを行った。学長、館長、職員で行動目標を共有して、一丸となって「学生のための図書館」を目指すことを確認した。



図3. 行動目標

表1. 行動目標一覧

【2021年度-2022年度全体スローガン】 学生のための大学図書館へ！		
大目標	中目標	小目標
利用者ファースト	きめ細やかな学生のニーズ調査を実施する	Twitterの投票機能を用いてピンポイントなアンケート調査を月1回実施する。
		図書館サービスに関するWebアンケートを実施して、300人以上の回答を得る。
		オンライン選書会を年1回開催する。
	コロナ禍にも対応した学生向けサービスの向上をはかる	学生懇談会を年1回開催する。
		電子ブックのタイトルを拡充し、電子ブックの利用回数を前年度比5%UPさせる。
		オンライン学生相談、オンラインレファレンスの窓口を開設する。
		動画コンテンツを5本公開する。
		全職員が1日1回案内係として館内を巡回する。
		「プラネタリーヘルスコーナー」を設置する。
	安全安心で快適な学習環境を整備する	特定テーマでの学生リクエスト募集を年3回実施する。
		貸出制限を見直して貸出の利便性を向上させ、貸出冊数を前年度比5%UPさせる。
		図書館利用に応じた特典制度の導入を検討する。
Web用個室を新設する。		
ゾーニングを見直す。		
設備を更新する。		
効果的な図書館の情報発信	リアルタイムな情報をSNSで発信する	空席状況がわかる仕組みをつくる。
		軽食販売の導入を検討する。
		安全のための講習会、訓練（AEDや車いす、避難誘導など）を年1回実施する。
	ホームページや刊行物等を学生目線で作り替える	危機管理マニュアルを改訂する。
		Twitterを1日1回投稿する。
		Twitterのフォロワー数を650人→1000人に増やす。
		ブログの更新回数を年40回→100回に増やす。
		新規SNSの導入を検討する。
		他大学の図書館ホームページ20件を比較する。
	図書館PRイベントの開催や他部署との広報連携を活かす	現在の各ページの要・不要を整理する。
		デザインを統一したホームページにリニューアルする。
		利用の多いページからレスポンス対応を進める。
貴重資料電子化コレクションページの整理・充実を図る。		
ホームページの更新方法・チェックのルールを作成する。		
刊行物の見直しを行う。		
館内掲示についての基準を作成する。		
デジタルサイネージの効果的な活用方法を検討する。		
学生が楽しめるイベントを年1回開催する。		
展示WGを立ち上げ、ギャラリー等で年3回の展示を行う。		
学内広報（NU-web、長大メールなど）と連携を図り、効果的な広報を行う。		

た。現在は対面形式とオンライン形式での相談を受け付けており、学生が安心して相談しやすい体制を整えた。

最後に、学習環境を整備するために、図書館内のゾーニングを見直した。例えば、オンラインでの講義の受講や就職活動の面接に利用できるように、WEB用の個室を新設した。また、閲覧席のコンセントの増設やデスクパーティションの設置、プロジェクターやスクリーンといった設備を更新するなど、学生がより快適に学習に取り組めるような環境を整備した。

さらに、整備した空間を授業などに活用してもらえるように、教員との連携をはかった。2022年度は図書館を利用した授業も多く実施されている。2022年4月から6月に行った新1年生を対象とした資料収集ガイダンスは対面で15回実施された。また、2022年4月から8月まで、教員とコラボレーションしたアクティ

2022年3月までの目標達成状況

1. 利用者ファーストについて

2021年度は19の小目標のうち、17の小目標を達成することができた。

まず、学生のニーズを調査するために、図書館サービスに関するWEBアンケートを2021年7月6日から7月23日まで実施した。WEBサイトやTwitterでの広報、教員にも協力を依頼するなど、より多くの学生の声を聞けるように努めた。その結果、654人から回答を得ることができた。特に、学習環境や開館時間、資料についての要望や意見が多く寄せられた。新型コロナウイルスの感染状況などを考慮して、実現できる要望から取り入れた。例として、学生から要望が多かった小説や就職活動に関する本を対象にしたリクエスト企画を行った。また、学習環境について、時間・人数の制限やパーティション

などを設置したうえでラーニングコモンズの利用を再開した。寄せられた要望には、附属図書館での資料の貸出・返却や学生が読みたい図書をリクエストできる制度など、既に行っているサービスも挙げたので、以前から行っているサービスについての情報周知にも力を入れた。さらに、学生のニーズを把握するために、館長と学生との懇談会を2回開催した。館長、分館長が直接学生の話聞いた。学習時に利用できる裏紙の設置やグループ学習室の利用時間の延長など、実現可能な要望には即時対応した。現在、Twitterでも定期的に学生に向けたアンケートを実施しており、学生のニーズ把握に努めている。

次にコロナ禍に対応した学生へのサービス向上のため、大学院生による学習相談をオンラインで実施し

ブラーニングの授業が17回実施予定である。

2. 効果的な情報発信について

2021年度は16の小目標のうち、9の小目標を達成することができた。

まず、より幅広い情報発信を行うため、新規SNSの導入を検討した。Twitter上で学生の利用頻度の高いSNSを調査し、Instagramを導入することにした。Instagram開設後からフォロワー数は順調に増加している。また、Twitterについては、1日1回の投稿を目標にした。館内の状況やイベントの案内、新着図書・雑誌の紹介など、学生へ向けたリアルタイムな情報発信を行い、2021年度の投稿回数は606回であった。フォロワー数は、2021年4月から2022年3月までの1年間で約200人増加している。さらに、ブログは年に100回の投稿を目標にした。図書館サービス

表2. 学生の入館者数

学生入館者数 (3館合計)													単位:人
年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2019年度	49,654	56,856	58,957	66,779	31,792	20,431	43,888	50,157	37,548	46,050	38,866	13,006	513,984
2020年度	6,133	2,602	11,475	16,190	11,774	9,053	25,141	23,311	19,320	16,607	15,927	9,864	167,397
2021年度	27,956	23,361	30,820	33,749	16,677	13,400	25,624	26,618	19,566	22,642	15,905	8,672	264,990
目標値	24,827	28,428	29,479	33,390	15,896	10,216	21,944	25,079	18,774	23,025	19,433	6,503	256,992
目標との差	3,129	-5,067	1,341	359	781	3,184	3,680	1,539	792	-383	-3,528	2,169	7,996

表3. 学生の貸出冊数

学生貸出冊数 (3館合計)													単位:冊
年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2019年度	5,916	7,216	7,614	7,430	3,206	2,383	6,486	6,220	6,434	6,030	3,953	1,801	64,689
2020年度	3,173	2,236	4,972	4,812	3,122	2,445	5,859	5,522	4,797	5,233	4,323	2,059	48,553
2021年度	5,398	5,538	5,710	5,704	3,423	3,458	5,409	5,310	5,094	5,375	4,011	1,634	56,064
目標値	3,332	2,348	5,224	5,053	3,278	2,567	6,152	5,798	5,037	5,495	4,539	2,162	50,985
目標との差	2,066	3,190	486	651	145	891	-743	-488	57	-120	-528	-528	5,079

表4. 電子ブックの利用回数

電子ブック利用回数													単位:回
年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2017年度	87	126	459	144	105	97	113	155	560	412	148	193	2,599
2018年度	283	211	297	193	234	235	144	141	142	145	218	178	2,421
2019年度	246	204	171	146	83	451	319	198	183	122	201	298	2,622
2020年度	346	373	447	618	276	276	366	572	237	521	254	232	4,518
2021年度	363	568	449	278	194	161	306	533	293	318	562	722	4,747

の利用方法や館内展示の案内、おすすめ図書の紹介など、さまざまなテーマで投稿を行い、2021年度は169回の投稿回数であった。今後も、SNSを活用した情報発信に取り組みたい。

次に、刊行物の見直しを行った。図書館で作成している広報誌をスマートフォンやタブレットなどのモバイルデバイスでの表示を意識したページ作りでWEB発行するなど、より多くの学生に見てもらえるように工夫した。

最後に、図書館でのイベントを実施した。例として、自分が図書館で借りた本の記録がわかる読書通帳の作成や各館でさまざまなテーマの館内展示を行い、より多くの学生に図書館に関心を持ってもらえるように努めた。

3. 学生の入館者数について

新型コロナウイルス・パンデミック以前の2019年度入館者数の50%という目標を達成できた(表2)。

2021年度の学生の入館者数は264,990人であり、2019年度の51.6%であった。月ごとの入館者数に着目すると、新型コロナウイルスの感染

が拡大した時期(5月、1月、2月)を除いて、目標値を上回った。

4. 学生の貸出冊数について

2020年度比5%増という目標を達成できた(表3)。

2021年度の学生の貸出冊数は56,064冊であり、2020年度の48,553冊と比較すると、15.5%増となった。月ごとの貸出冊数に着目すると、9月までは目標値を上回っている。しかし、10月以降は目標値を下回っており、状況は決して芳しいとはいえない。

一方で、2021年度の電子ブック利用回数は4,747回であり、新型コロナウイルスのパンデミック以前である2019年度の2,622回と比較すると81%増となっている(表4)。また、2020年度の4,518回と比較しても5%増となっている。目標値に達しなかった3月の図書の貸出冊数に着目すると、2021年度は2020年度よりも425冊少なくなっているのに対し、電子ブックの利用回数は2020年度よりも490回多くなっている。この結果から、場所を選ばず気軽に読める電子ブックの需要が高まっているといえる。

おわりに

2021年度は行動目標の中でも緊急度の高いものから着手して、目標の達成に取り組んだ。その結果、2022年3月までの1年間で、多くの目標を達成することができた。コロナ禍以前からも、学生に図書館を利用してもらうためにさまざまな取り組みを行ってきたが、今回改めて「学生のための図書館」のあり方について考え、行動目標を明確にした。その結果、目標達成に向けてどう取り組むか、どうすればより学生に図書館を利用してもらえるかをひとりひとりが考えて行動する意識が高まった。現在、館長と職員全員で毎月1回、ミーティングを行っている。目標の達成状況や図書館の現状について情報を共有し、その内容について学長にも毎月1回報告を行い、意見をもらっている。今後も、「学生のための図書館」の実現に向けて、日々励んでいきたい。

(いちのせ ひとみ, はまだ ひさゆき: 長崎大学附属図書館, こうの しげる: 長崎大学)

[NDC10: 017.7

BSH: 長崎大学附属図書館]